

1. 評価結果報告書

作成日 平成19年9月16日

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 4270104047 |
| 法人名 | 社会福祉法人 清潮会 |
| 事業所名 | グループホーム 三重の里 |
| 所在地 | 長崎市畝刈町1613番地169 (電話)095-814-1233 |

| | | | |
|-------|-------------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構 | | |
| 所在地 | 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年9月6日 | 評価確定日 | 平成19年10月5日 |

【情報提供票より】(平成19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|-----------------------------|
| 開設年月日 | 昭和(平成) 16年 2月 1日 |
| ユニット数 | 1 ユニット 利用定員数計 6 人 |
| 職員数 | 6 人 常勤 7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|-----------------------------------|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート造り 3階建ての 1階 ~ 3階部分2階居室 |
|------|-----------------------------------|

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 15,000 円 | その他の経費(月額) | 実費 円 |
| 敷金 | 有(円) | (無) | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり | 900 円 | |

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 6名 | 男性 | 0名 | 女性 | 6名 |
| 要介護1 | 1名 | 要介護2 | 1名 | | |
| 要介護3 | 2名 | 要介護4 | 1名 | | |
| 要介護5 | 0名 | 要支援2 | 1名 | | |
| 年齢 | 平均 79.8歳 | 最低 | 67歳 | 最高 | 95歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 田尾内科・このの医院・ひらの歯科クリニック |
|---------|-----------------------|


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは建物の両側が、道路に面しており、地域の住民が散歩したりと賑やかな場所にある。近所には消防署や大型スーパーがあり、利便性は高い。ホーム内は、明るく開放的で、スタッフと入居者の笑い声が絶えない雰囲気があった。利用者本位の介護計画・評価がなされており、個別ケアの質の高さを感じた。自己・外部評価に対する意識も高く、管理者、スタッフ全員が改善に繋がるよう、課題を分析し、改善目標に沿った取り組みを早期に実践している。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回の評価で抽出された課題に対して、例えば理念は簡略化、重要事項説明書の細分化が早急に改善されており、分かりやすくなっていた。評価を重ねるごとにレベルアップしたその後の取り組みに今後も大きな期待を寄せている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価を職員全員がまず一人ひとり評価し、意見を集約し自己評価表を作り上げている。自己を振り返ることで、日々のケアが入居者のためにベストの状態であるか、見極めることに繋がっている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 運営推進会議は、地域をよく知り尽くした市町村関係者を構成メンバーに組み込み、地域密着型グループホームの意義を十分考慮した会議が開催されている。今後も公共機関をさらに巻き込んだ質の高い、地域に根付いた介護サービスの提供を望む。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 事業所側から家族からの意見を聞き取る場面は作られてはいるが、あまり意見が出てこないのが、現状である。意見が出にくいと言うことを十分理解し、家族会を設けたり、満足度調査やアンケート調査など、積極的なアプローチが今後の大きな課題と考える。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目 | 地域性の問題で、自治会がなく加入は出来ていない。地域住民への理解と市町村への事業所側からの積極的な働きかけにより、今後自治会の発足、運営の拠点となっていこう地域とのさらなる連携を期待する。 |

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-------|---|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | | 地域密着型サービスとしての理念 | | | |
| 1 | 1 | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 現在、独自の理念としてわかりやすく、<明るく、楽しく、ゆったり>という、キーワードを掲げ、日々のサービスの提供に努めている。 | | 実際のサービスでは、地域の中での関係作りに努めているが、理念の中にもうひと工夫地域との関係性を重視した文言を加える事が望ましい。地域の中でグループホームが頼られる拠点となることを期待したい。 |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の具体化は管理者、職員みんなで検討されており、共有し日々取り組んでいる。訪問時も明るく、楽しく、ゆったりとした時間を感じ取ることが出来た。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地道な活動として、小学校の文化祭へ参加したり、ホーム周辺の掃除を入居者とともにしたり、子供たちとの交流も少しずつ、増えてきている。 | | 地域性の問題で、所在地には自治会がなく、加入できていない。地域住民への理解と市町村への働きかけにより、今後自治会の発足、運営の拠点となっていくよう、更なる連携を期待したい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価を職員全員が実施し、自己の振り返り、改善項目の明確化に努めている。評価を一年間のケアの振り返りの良い機会と捉え、評価を活かして更なる質の向上に役立てていこうと、具体的な改善に取り組む意識が高い。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議のメンバーも地域を知り尽くした市町村関係者を置き、今後も消防署や地域の公共機関と連携し、会議を活かした地域との関係性を重視した取り組みに努める予定である。 | | |

グループホーム 三重の里

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|--|-----|--|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 管理者は連携が取りにくい中で、市町村担当者に直接事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れ、伝えている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時や変化があったときなどは口頭にて家族へ報告しているが、定期的な文面による近況の報告は、十分とはいえない。 | | 月1回請求書送付時に個々の状況やホーム便りなどを作成し、口頭に留まらず、記録として家族へ報告するなどの細やかな報告が望まれる。 |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置や面会時など家族へ直接意見を聞く機会を設けているが、意見があまり出てこない。 | | 意見が出しにくいと言うことを理解し、家族会を設けたり、満足度調査やアンケートなど事業所側から積極的に意見を聞く努力や場面作りを持たれることを期待したい。 |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 日頃から母体である特養に入居者と外出したりとスタッフとの馴染みの関係を重視したり、万が一異動になっても、入居者が混乱しないよう、対応に配慮している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 母体での研修は、日程を複数設定し、スタッフ全員が参加できるよう、配慮されている。法人外の研修参加へも積極的に受けるよう、機会の確保や会議などでも伝達講習を行っている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会は今のところ、積極的な活動はなされていないが、系列のグループホーム同士では、相談しあうなど交流を図っている。今後は地域密着を重視して、所在地周辺のグループホームとの交流も、期待したい。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>入居前の見学や面接は対応しており、顔なじみの関係を作りながら安心感を持ってもらえるよう、支援している。</p> | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p> | <p>一緒に過ごす中で一方的にならず、共に過ごし、学び、支え合うという関係が築かれている。</p> | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> | <p>入居時のケアマネジメントに留まらず、アセスメントシートを活用し、思いや意向の把握に努めている。その都度、変更、修正、追加し、状況に応じたアプローチを行っている。</p> | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> | <p>介護計画の立案に当たり、アセスメントを十分に行い、個別性の高い、利用者本位に立った介護計画が立案されている。</p> | | |
| 16 | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> | <p>介護計画の見直しは担当スタッフを中心となっているが、評価するための判断や根拠はスタッフ全員で相談しながら、現状に即した計画が作成されている。</p> | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|--|-----|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 通院介助の代行や外泊、外出の支援などは本人家族の状況に応じて柔軟に支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族と相談の上でかかりつけ医を決定している。必要に応じて通院介助を代行したり、結果を家族へ報告し、情報の共有に努めている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期に対する本人、家族の意向については十分な確認がされているとは、言えない。 | | 入居者、家族の状態、要望を適宜把握し、関係機関と連携し、方針を具体化する。重度化や終末期に向けた方針の意思統一が出来るような取り組みを期待する。 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人を尊重した言葉かけや対応で、入居者と接している。記録物の保管は個人情報の取り扱いを重視し、鍵の掛かるところへ保管している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりにあった個別性のある支援を行っている。本人が望む墓参り床拭きや選挙の投票、お経読みの支援などにも対応している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|-----|---|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立はスタッフが当日考え、調理や盛り付け、片付けも入居者の能力に応じて自主的に手伝ってもらっている。母体施設での調理実習や栄養士への相談など行っている。今後も高齢者への食の知識と技術の研磨に努めて頂くよう、期待する。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 現在、毎日お風呂は沸かしているが、午前中に希望されることが少ないことから、時間帯は午後からとなっている。 | | 本人、家族から一人ひとりの入浴に対する習慣や好みを情報収集して、午前中や夜間も入浴可能な体制の確保、個別にあった入浴支援が望まれる。 |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 潜在している記憶や出来る能力を最大限に引き出して、役割を持って頂いている。(食事作りや洗濯物干し等)また、ひな祭りや節分、菖蒲見学など季節を実感できるように、年間を通じて楽しみごとの支援を行っている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 入居者の状況に応じて、特養や買い物など、毎日戸外へ出かけられるよう、支援している。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は鍵をかけないで、自由に行き来が可能である。万が一入居者が外出しようとしても、さりげなく一緒に付き添い、誘導している。近隣のガソリンスタンドや住民にも理解を求め、見守りの体制が出来ている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の協力を得て、避難訓練は定期的に行っているが、地域の人々や他の事業所の協力を得ながら、一緒に行うまでには至っていない。 | | 地域住民、消防署、警察署との連携を図りながら、災害対策に関する理解を求め、協力体制の整備に取り組まれることを望む。(緊急時の非常用食料、備品の準備も含む) |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 母体の特養の栄養士に適宜栄養バランスなど確認してもらい、研修にて調理方法を学んだり、糖尿病食などの治療食への対応も可能である。水分量、食事摂取量を個別に把握し、記録に残し、職員間で情報を共有している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 既存の建物を改修しており、居間兼食堂は若干狭いが、室内は明るい配色で刺激のある居心地の良い空間作りがなされている。訪問時、手すりに物が乗っていたり、エプロン等がかけてあったりし、事故誘発の一因となる状況になっていた為、杖の保管場所と共に一工夫してみると更に良いのではないかと。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族への声かけを行い、仏壇や整理ダンスや手作りの写真立てなど、使い慣れた物を持ち込んであった。カーテンの柄も本人、家族に選択してもらい、個性を尊重している。 | | |